

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号について

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号

施設果菜類全般でタバココナジラミの発生量が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : タバココナジラミ
- 2 作物名 : 冬春キュウリ、冬春ピーマン、冬春トマト（大玉・ミニ）
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 冬春キュウリ 多
冬春ピーマン やや多
冬春トマト 多

5 注意報の根拠

- 1) 冬春キュウリの10月中旬の巡回調査における発生面積率は、100%（前年83.3%、平年53.3%）で平年比多、100葉あたり虫数は20.8頭（前年3.7頭、平年2.8頭）で平年比多であった（図1～2）。

発生面積率、100葉あたり虫数ともに過去10年で最も高くなっている。

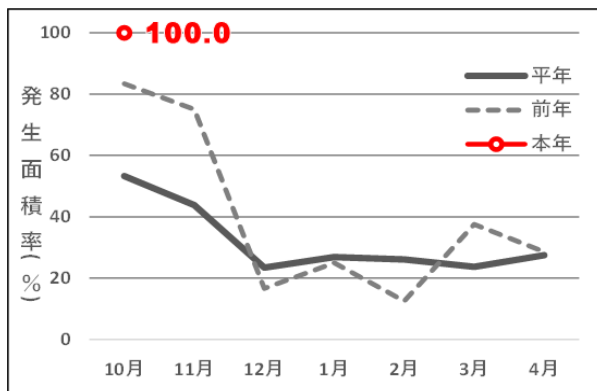


図1 発生面積率の推移

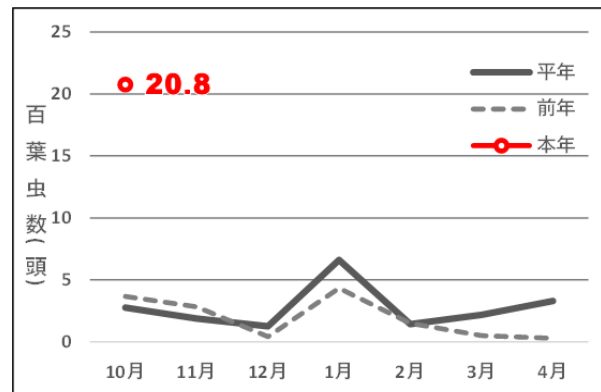


図2 100葉あたり虫数の推移

2) 冬春ピーマンの発生面積率は、70.0%（前年 50.0%、平年 59.5%）で平年比並、100 葉あたり虫数は 10.1 頭（前年 6.3 頭、平年 6.5 頭）で平年比やや多であった（図 3～4）。

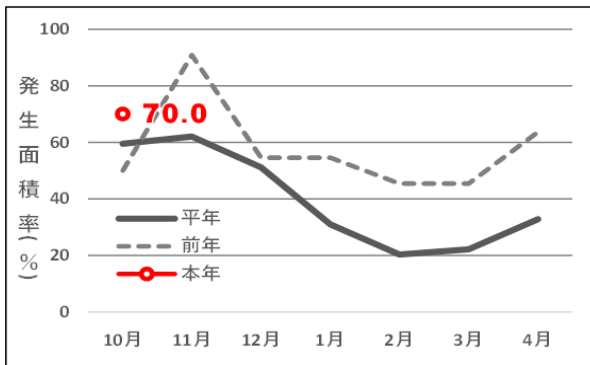


図 3 発生面積率の推移

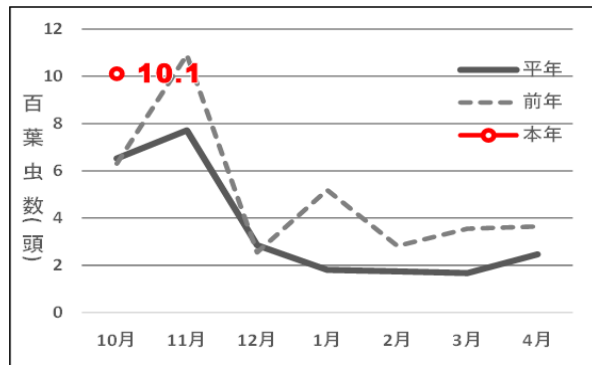


図 4 100 葉あたり虫数の推移

3) 冬春トマトの発生面積率は、77.8%（前年 62.5%、平年 47.5%）で平年比多、100 葉あたり虫数は 17.0 頭（前年 2.4 頭、平年 2.2 頭）で平年比多であった（図 5～6）。
発生面積率、100 葉あたり虫数ともに過去 10 年で最も高くなっている。

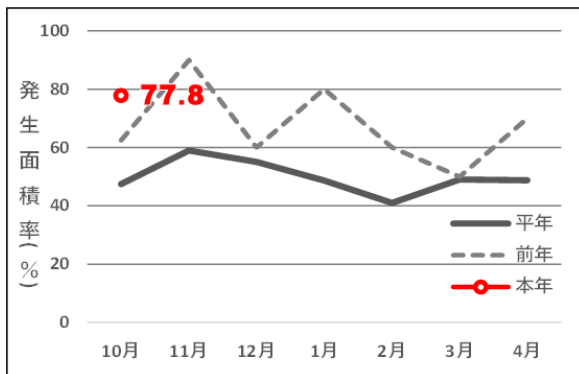


図 5 発生面積率の推移

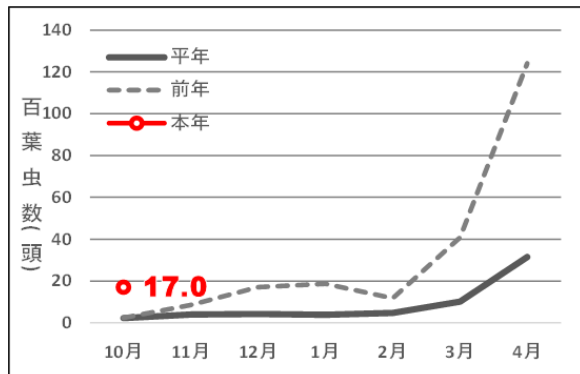


図 6 100 葉あたり虫数の推移

6 防除上の注意

- 多発してからでは防除効果が低くなるため早めに防除する。
また、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて追加防除を行う。
既に発生が多いほ場では、2～3回の連続散布を行う。
- 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤（IRAC コード）の連用は避け、ローテーション散布を心がける。
- タバココナジラミは、冬春キュウリではキュウリ退緑黄化病（CCYV）、冬春トマト（大玉・ミニ）ではトマト黄化葉巻病（TYLCV）、トマト黄化病（ToCV）を媒介する。
発病した株を治療する方法はなく、新たな伝染源になるため、発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋等で密閉して枯死させてから適切に処分する。
- トマト黄化葉巻病耐病性品種は、発病していなくても、保毒して伝染源になることがあるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 松浦、田爪
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
HP：https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

